

毎日新聞朝刊 神奈川県版
2017年3月5日(日)掲載



地震防災講座で
止血法など体験

湯河原

地震のメカニズムを知り、事前の備えの大切さや災害時に役立つ知識を学ぶ体験型防災教室「地震イツモ講座（「だいじょうぶ」キャンペーン実行委員会主催）が4日、湯河原町吉浜の特別養護老人ホーム「シーサイド湯河原」で開かれた。近隣の住民や職員ら約20人が参加。講師を務めたNPO法人「プラス・アーツ」の小倉文佳さん(38)は、日本では

毎年震度4以上の地震が起きていることを指摘しながら、「地震はいつ起きるのではなくて、いつも起きるという意識で防災に取り組んでほしい」と訴えた。災害発生時に役立つ技術や知識が身につく体験型プログラムで、参加者はハンカチやネクタイ、ビニール袋を使った止血法を教わり、毛布で作った担架で負傷者に見立てたカエルの人形を運ぶなど、楽しみながら防災について学んだ。

西山康隆さん(69)は「どれ一つ役に立たないものはなかった」とプログラムを振り返り、大野真一朗さん(7)は「カエルを運ぶのが楽しかった」と笑顔だった。【川端政二



毛布を使ってけが人を運ぶ練習をする参加者
＝湯河原町吉浜の「シーサイド湯河原」で